

第10節 外国語

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

指導計画作成に当たっては、第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、外国語の目標や基本的な理念を踏まえて行うようにする。また、学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現が図れるように配慮する。

(1) 外国語の目標 (学 P137)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2) 外国語の基本的な理念 (ガイドブック基本編「小学校外国語教育(外国語活動・外国語)の基本理念」参照)

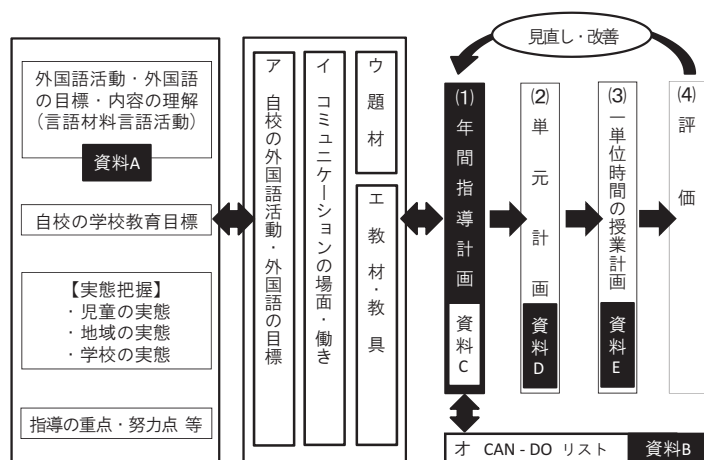
ア 外国語を用いたコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成
イ 「聞くこと」「話すこと」及び、「読むこと」「書くこと」の4技能を扱う
ウ 音声から文字への指導を行う
エ 言語活動を通して、文や文構造への理解を図る

*ガイドブック：文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」のこと。

2 指導計画作成の一般的な手順

(1) 年間指導計画 (編 P154～157 資料C)

(ガイドブック実践編「題材選定の仕方・教材の在り方」及び「年間指導計画の立案」参照)



年間指導計画作成するには、以下の点に留意する。

ア 自校の外国語の目標は、外国語の目標・内容(編 P150～152 資料A)を踏まえ、自校の学校教育目標、児童・地域・学校の実態に合わせ、指導の重点・努力点等を参考に設定する。

イ コミュニケーションの場面(挨拶、買い物、地域の行事等)やコミュニケーションの働き(気持ちを伝える、事実・情報を伝える等)を参考に活動を整理し、学校行事等に関連付けて学習できるように配列し、年間指導計画作成する。

ウ 言語活動で扱う題材は、「児童の興味・関心」、「他教科等の学習や学校行事等で扱う内容との関連」、「国際理解と自国理解」について留意する。

エ 教材選定に当たっては、各学年の目標や内容に資するものであるかという点が重要である。各学校や学級の実態に合わせたオリジナル教材の活用などの工夫を図ることが必要である。

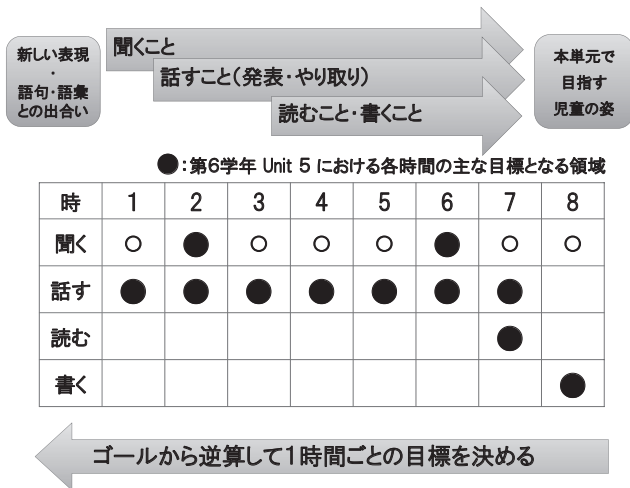
オ 学年ごとの「学習到達目標」(CAN-DO リスト)(編 P153 資料B)を設定することにより、児童にどのような英語力が身に付くか、英語を用いて何ができるようになるか、あらかじめ明らかにし、児童と共有することで授業のねらいを明確にすることとなる。

(2) 単元計画の立案 (ガイドブック授業研究編Ⅱ外国語「単元・授業構成上の留意点」参照)

単元計画を構成するには、ゴールから逆算した(バックワード・デザイン)1単位時間ごとの目標を設定し、言語活動を組み立ていく。特に以下の点について留意する。

ア 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の順序性を踏まえる。

イ 単元を通じて繰り返し取り組ませる活動を位置付ける。



ウ 教師が単元終末段階で児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した具体的な課題を設定する。

(編 P155,157,158~160 **資料D**)

- (3) 1 単位時間の授業計画 (ガイドブック授業研究編Ⅱ 外国語「単元・授業構成上の留意点」参照)

(編 P160,161 **資料E**)

1 単位時間の授業計画を構成する際には、以下の点に留意する。

ア 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の順序性を踏まえる。

イ 当該単位時間のねらいや評価する言語活動を焦点化する。

(4) 評価

完成した年間指導計画は、学校行事や他教科等の学習内容、児童の発達の段階や興味・関心に応じて、見直しや修正を行う。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点 (解 P64,65)

音声を聞き取ることが難しい場合、外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう、リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表すなどの配慮をする。また、本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておくなどの配慮をする。

- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点 (ガイドブック授業研究編Ⅱ 外国語「授業研究の視点⑧」参照)

単元など内容や時間のまとまりの中で、以下の視点で授業改善を進める。

ア「主体的」: 架空のことだけでなく、自分自身の考えや気持ちを表現させる。

イ「対話的」: 伝え合う目的があり、伝え合う内容が互いに未知であるよう工夫する。

ウ「深い学び」: 伝え合う活動を通して、言語材料の「意味」「場面」「目的」を結び付けるようにする。

- (3) 「教科等横断的」な視点 (ガイドブック授業研究編Ⅱ 外国語「授業研究の視点⑥」参照)

他教科等や学校行事で得た知識や体験を、外国語の学習の中で適切に生かすために、相互の関連について検討し、指導計画に位置付ける。

- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点 (解 P65,66)

学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

- (5) 「道徳教育の充実」の視点 (解 P73,74)

道徳教育の全体計画との関連、指導内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。

- (6) 「外国語教育の充実」の視点 (ガイドブック基本編「外国語の基本的な理念」参照)

ア 中学年の外国語活動、中学校外国語との接続に留意する。

イ 中学年の外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導して定着を図る。これにより、外国語を用いたコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

ウ 「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」及び、「読むこと」「書くこと」の五領域を扱う。ただし、「読むこと」「書くこと」については、「慣れ親しみ」であり、「聞くこと」「話すこと」に求める技能とは同等ではないことに留意する。

エ まずは音声で十分に慣れ親しんだ後、細かな段階を踏んで文字への指導を行う。

オ 言語活動を通して、文や文構造への理解を図る。文や文構造の解説を通してではなく、児童にとって必然性のある活動を通して語彙や表現に出合わせるなどの工夫をし、児童が考えや気持ちを表現できるようにする。

第2 指導計画作成のための資料

資料A 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表 (解 P75～78)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方
 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

目 標			
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くこと、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
人間性等	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

5つの領域別の目標			
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
読むこと		ア 活字で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
話すこと【やり取り】	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりするようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
話すこと【発表】	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと		ア 大文字、小文字を活字で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表（解 P79, 80）

	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
音声	次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (4) 語と語の連結による音の変化 (9) 語や句、文における基本的な強勢 (2) 文における基本的なイントネーション (8) 文における基本的な区切り	次に示す事項について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (4) 語と語の連結による音の変化 (9) 語や句、文における基本的な強勢 (2) 文における基本的なイントネーション (8) 文における基本的な区切り
文字及び符号 /符号	(7) 活字体の大文字、小文字 (4) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号	感嘆符、引用符などの符号
語、連語及び 慣用表現	(7) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語 (4) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの (9) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの	(7) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語 (4) 連語のうち、活用頻度の高いもの (9) 慣用表現のうち、活用頻度の高いもの
文及び 文構造/ 文、文構 造及び 文法事 項	次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。 文 a 単文 b 肯定、否定の平叙文 c 肯定、否定の命令文 d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの	小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)の工及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。 a 重文、複文 b 疑問文のうち、助動詞(may, willなど)で始まるものやorを含むもの、疑問詞(which, whose)で始まるもの c 感嘆文のうち基本的なもの
文 構 造	a [主語+動詞] b [主語+動詞+補語]のうち、 主語+be動詞+名詞 / 代名詞 / 形容詞 c [主語+動詞+目的語]のうち、 主語+動詞+名詞 / 代名詞	a [主語+動詞+補語]のうち、 主語+be動詞以外の動詞+名詞 / 形容詞 b [主語+動詞+目的語]のうち、 (a) 主語+動詞+動名詞 / to不定詞 / how(など)to不定詞 (b) 主語+動詞+thatで始まる節 / whatなどで始まる節 c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち (a) 主語+動詞+間接目的語+名詞 / 代名詞 (b) 主語+動詞+間接目的語+how(など)to不定詞 (c) 主語+動詞+間接目的語+thatで始まる節 / whatなどで始まる節 d [主語+動詞+目的語+補語]のうち、 (a) 主語+動詞+目的語+名詞 / 形容詞 (b) 主語+動詞+目的語+原形不定詞 e その他 (a) There+be動詞+～ (b) It+be動詞+～(+for～)+to不定詞 (c) 主語+tell, wantなど+目的語+to不定詞 (d) 主語+be動詞+形容詞+thatで始まる節
文法事項		a 代名詞 (a) 人称や指示、疑問、数量を表すもの (b) 関係代名詞のうち、主格のthat, which, who, 目的格のthat, whichの制限的用法 b 接続詞 c 助動詞 d 前置詞 e 動詞の時制及び相など 現在形や過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現 f 形容詞や副詞を用いた比較表現 g to不定詞 h 動名詞 i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法 j 受け身 k 仮定法のうち基本的なもの

(参考) 小学校第3学年及び第4学年 外国語活動

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

(7) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

(4) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。

(9) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表（解 P81, 82）

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
聞くこと	(7) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。	(7) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(7) 日常的话题について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。
	(4) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(4) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。	(4) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。
	(9) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。	(9) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。	(9) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に回答する活動。
			(1) 友達や家族、学校生活などの日常的话题や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。
読むこと		(7) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。	(7) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。
		(4) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。	(4) 日常的话题について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。
		(9) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。	(9) 簡単な語句や文で書かれた日常的话题に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。
		(1) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。	(1) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。
話すこと 「やり取り」	(7) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。	(7) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	(7) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に回答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
	(4) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。	(4) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。	(4) 日常的话题について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
	(9) 自分や相手の好み及び欲しいものなどについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	(9) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。	(9) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に回答したり自ら質問し返したりする活動。
話すこと 「発表」	(7) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(7) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。	(7) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。
	(4) 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(4) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。	(4) 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。
	(9) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(9) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(9) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。
書くこと		(7) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。	(7) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。
		(4) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。	(4) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。
		(9) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。	(9) 日常的话题について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。
		(1) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。	(1) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

外国語・外国語活動「学習到達目標」CAN - DO リスト (例)

中学校				
聞くこと	読むこと	話すこと〈やり取り〉	話すこと〈発表〉	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ○はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。 ○はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができる。 ○はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。 ○日常的・社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要や要点を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文で伝えたり、相手の質問に答えたりすることができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由について述べ合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を簡単な語句や文を用いて話すことができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。 ○日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。 ○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる。
小学校第5学年及び第6学年				
聞くこと	読むこと	話すこと〈やり取り〉	話すこと〈発表〉	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ゆっくりはっきりと話されれば、自分のこと、日常生活のことなど、身近な事柄について簡単な語句を聞き取るとともに、基本的な情報を聞き取ったり、具体的な情報を聞き取ったりできる。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、短い話の概要を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活字で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる。 ○音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。 ○日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。 ○自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問したり質問に答えたりして伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に関する身近で簡単な事柄について、基本的な表現を用いて話すことができる。 ○自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる。 ○身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大文字、小文字を活字で書くことができる。また、語順を意識して音声で十分に慣れ親しんだ語句や、基本的な表現を書き写すことができる。 ○自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
小学校第3学年及び第4学年				
聞くこと	読むこと	話すこと〈やり取り〉	話すこと〈発表〉	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ○ゆっくりはっきりと話された際に、自分の身の回りのものを表す簡単な語句を聞き取る。 ○ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味を理解する。 ○文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な表現を用いて挨拶したり、感謝の気持ちを表現したりできる。また簡単な指示をしたり、それらに応じたりする。 ○自分のことや身の回りの物について、動作を交えて伝え合う。 ○サポートを受け、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、質問したり質問に答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの物について、人前で実物等を見せながら、基本的な表現を用いて話す。 ○自分のことについて、人前で実物等を見せながら、基本的な表現を用いて話す。 ○日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、基本的な表現を用いて話す。 	

1 CAN - DO リストについて

学習指導要領に基づき、児童生徒が身に付ける能力を明確化し「英語を使って何ができるようになるのか」を学習到達目標として記述する。その目標に到達するために授業を通して段階的に「できること」を積み上げ、児童ができるようになってきているかを評価し指導に生かす。

2 CAN - DO リストの活用

【3(6) 外国語教育の充実の視点】

授業で扱った表現を、全ての児童がすぐに使えるようになるとは限らない。繰り返し使うことで定着へと近づく。CAN - DO リストを利用して児童の「つまずき」を把握し、一人一人を伸ばす指導に役立てる。

中学校では各校の実態に応じて CAN - DO リストの作成が求められる。今後は小学校でも作成が義務づけられる可能性があるため、大きな目標から逆算して小さな目標を作っていくなど、より細分化したリストを作成し、卒業後の英語力を見据えて指導計画を立てる。

「CAN - DO リスト」に関する詳細は、『各中・高等学校の外国語教育における「CAN - DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き（平成25年3月 文部科学省）』を参照 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm



学習到達目標を基に細分化した児童用 CAN - DO リストの例

Hi, friends 1 宮代町立東小学校・笠原小学校

「I can do!」リスト

_____ grade _____ class

name _____

こんなことができようになります!

英語でのあいさつができる。	英語で自分の名前を紹介ができる。	表情やジェスチャーをつけて自分の感情を伝えたり、相手の気持ちをたずねたりできる。	英語で1～10までの数を数え、ものの数をたずねたり答えたりすることができる。
英語での会話をとおして日本語と英語の音のちがいを発見することができた。	英語で好きなものや嫌いなものについてたずねたり答えたりできる。	アルファベットの大文字26文字がわかった。	身の回りにはアルファベットの文字がたくさんあることを発見できた。
アルファベットの大文字26文字がわかるようになった。	英語でほしいものをたずねたり答えたりできる。	英語での会話をとおして日本語と英語の共通点やちがいを発見することができた。	英語で「これは何?」とたずねたり答えたりできる。
英語での会話をとおして世界の小学校の学校生活にも興味をもてるようになった。	英語で何曜日どんな教科を学習するかをたずねたり答えたりできる。	英語での会話をとおして世界の食べ物に興味をもてるようになった。	ほしいものについていぬいな英語でたずねたりこたえたりできる。

第2 指導計画作成のための資料

資料C 第5学年 外国語 年間指導計画 例

※吹き出しは [P149 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項] と対応している ※ は、繰り返し学習することで定着を図る表現
 ※主な活動例について… [L] 聞くこと [S] 話すこと (発表・やり取り) [R] 読むこと [W] 書くこと

時数	単元名	単元目標	主な活動例	表現例	新出語彙・語句例	既習表現・語彙例
1 7 時間	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	・他者に配慮しながら自分の好きなものを含めて自己紹介をしたり自己紹介を聞いて概要を捉えたりする。 ・活字体の大文字を識別し読む(発音すること)ができる。	・音声を聞いて登場人物の好きな物を聞き取ったり、友達は何が欲しいのかを考えたりしながらインタビューをする。【LS】 ・好きなものを含めて自己紹介をしたり自己紹介を聞いて具体的な情報を聞き取ったりしながら「仲良しパーティー」をする。【LS】 ・名前をアルファベットで伝える。【RW】	Hello, I'm... Nice to meet you. My name is... How do you spell your name? K-o-s-e-i. What...do you like? I like...very much.	nice, to, meet, very, much, name, spell	Hello, I'm... Are you...? 活字体(大文字・小文字)、色、スポーツ、飲食物、動物など
2 8 時間	When is your birthday? 行事・誕生日	・文字の音に慣れ親しみ、大文字の読み方や書き方、季節や誕生日の尋ね方、答え方などが分かる。 ・祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いて、おおよその内容を聞き取るとともに、相手の誕生日や好み、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝える。	・「いつ」を尋ねたり答えたりする表現を聞いたり、言ったりする。【LS】 ・誕生日や好きなものを尋ねたり答えたりして伝える。【LS】 ・パースデューカードを作成して友達と贈り合う。【RW】	When is your birthday? My birthday is... What...do you like? I [like/don't like] ... What do you want for your birthday? I want... Happy birthday. This is for you. Thank you. You're welcome.	月、季節、序数 (1st~31st), when, for, your, birthday 状態や気持ちを表す語	What...do you like? I [like/want] ... What do you want? Your birthday is Monday. 数字 (1~50)
3 8 時間	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	・世界の同世代の子どもの私たちの学校生活と自分たちとの相違点や共通点聞き取る。 ・時間割について、尋ねたり答えたりして伝える。	・学校生活についての世界と日本の話を比べながら聞く。【L】 ・時間割について尋ねたり答えたりする。【LS】 ・「夢の時間割」を作成し、自分の考えを伝え合う。【LRW】	Do you have (P/E) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math).	on, school, study	Do you have...? Yes, I do. No, I don't. 曜日、教科
4 7 時間	What time do you get up? 一日の生活	・活字体の小文字の書き方や一日の生活について尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝える。	・一日の生活について聞いたり言ったりする。【LS】 ・自分の一日の生活について伝え合う。【LS】 ・一日の生活に関する簡単な語句を書き写す。【W】	What time do you (get up)? I usually (get up) at (7:00). I always (wash the dishes).	always, usually, sometimes, never, at, get up	What time is it? 日曜、時刻 数字 (1~60) 動作、スポーツ、曜日
5 8 時間	She can run fast. He can jump high. できること	・第三者についてのまとまった話から、具体的な情報を聞き取る。 ・他者に配慮しながら、自分や第三者について、できることできないことを紹介し合う。	・世界で活躍するスポーツ選手や研究者についてのまとまった話から、誰についての話なのかを推測する。【L】 ・校内の先生について、できることできないことを含めて紹介し合う。【LS】 ・He,She を4線に書き写す。【W】	Can you...well? Yes, I can. / No, I can't. [I/You/He/She] [can/can't] ... well.	he, she, can, can't, well, 動作(do)	play 動作、スポーツ
6 8 時間	Where is the treasure? 位置と場所	・ある物の位置や場所、位置関係についての説明を聞いて、概要を捉えたり、道案内をしたりする。 ・場所や物の位置関係について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを推測しながら読み取ったり書き写したりする。	・ある物の場所や物の位置関係について説明を聞いたり位置関係を表したりする。【LS】 ・地図にある語句を読み、自分が必要とする情報を得ながら、宝物までの場所を尋ねたり、宝物までの道案内をしたりする。【SR】 ・道案内の中で出てくるものの頭文字をワークシートに書き写す。【W】	Where is the (treasure)? Go straight for (three) blocks. Turn [right/left] at the (third) corner. You can see it on your [right/left]. It's [on/in/under/by] (the desk).	treasure, block, in, under, by, corner 身の回りの物 (cap, cup, box, basket など) 施設と建物 (school, library, park など) 数字 (1~60)、序数	right, left go straight 動作、施設と建物 (school, library, park など) 数字 (1~60)、序数

文字上の「出会い直し」として

※必要な情報を推測しながら読み取り、単元に関する簡単な語句を書き写し、繰り返す活動を通して、単元の中に取り入れることで、「大文字・小文字」に慣れ親しむことから、「大文字・小文字の定着」への目標の転換を目指す。

【3(5)】「道徳教育の充実」の視点
各家庭で一日のライフスタイルは異なることを理解させ、た上で活動させる。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
地図には、児童が読み取ったという必要感のある情報を取り入れ、情報活用能力向上の一助とする。

編 P155 資料D

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
where との出会い。ここでは新学習指導要領対し、小学校外国語教材 [We Can!] の単元6と単元7を入れ替え、単元6で身近な物の位置や場所の尋ね方、答え方を十分に学んだ後、単元7ではテーマとなる場所を世界へと移行し、視野を広げさらに会話を充実させていく。

<p>7 8 単位 時間</p>	<p>I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域</p> <p>【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点 単元6で十分に扱った、場所の尋ね方や答え方を生かして、世界をテーマとする会話に、主体的に取り組ませる。</p>	<p>活字体の文字とその音が分かったりも、国名やどこに行きたいか尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・行きたい国や地域の説明から具体的な情報を聞き取ったり、行きたい国や地域について説明しながら、自分の考えを整理して伝え合ったりする。</p>	<p>「I want to go〜?」チャッツを何度も聞いたり言ったりする。【LS】 ・旅行会社の店員と客に分かれ、海外旅行を勧めたり、行きたい旅行を、理由も含めて選んだりする。【LS】 ・ポスターやパンフレットなどにある視覚情報を伴う語句を読み、自分が必要とする情報を得る。【R】 ・国名や行きたい場所について書き写す。【W】</p>	<p>Where do you want to go? I want to go to (Italy). Why? Because I want to (eat) (spaghetti). It's (delicious). You can (play) (soccer). It's (cool).</p> <p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 ここで why を学習すると 5 W 1 H の全てに触れることになる。You can への表現は前向きなお勧めの表現になることを理解させる。</p>	<p>why, because 国 (Australia, Thailand, the UK, The USA, Japan, Italy, Germany, Canada, Spain, France など) 施設 (museum, temple, zoo など) 状態や気持ちを表す語 (beautiful, cute, delicious, fun, exciting など) 動作 (visit, buy, drink, eat など)</p>	<p>play, It is... 動作、状態や気持ちを表す語、国、飲食物</p> <p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 「Why?」の表現の呼称にこで触れさせ、単元9以降、自然な形で活用させる。</p>
<p>8 8 単位 時間</p>	<p>What would you like? 料理・値段</p> <p>【3(3)】「教科等横断的」な視点 単元7、単元8では、店員と客という設定で体験的な活動に取り組ませることにより理解を深める。また、言語能力育成の一環として、日常的なコミュニケーションの中で、日本語でも外国語でも丁寧な言葉使いは共通のマナーであるということを感じさせる。</p>	<p>丁寧な表現を使って注文をした。欲しいものを尋ねたりする。また、値段を尋ねたり答えたりする。 ・家族の呼称や音声で十分に慣れ親しんだ、料理や注文についての簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かる。</p>	<p>家族の呼称や、丁寧に注文や値段を尋ねたり言ったりする表現を聞いたりする。【LS】 ・店員と客に分かれ、丁寧な言い方で注文を尋ねたり答えたりする。また、値段を尋ねたり答えたりする。【LS】 ・メニューなどにある語句を読み、自分が必要とする情報を得たり、料理名を書き写したりする。【RW】</p>	<p>What would you like? What's your special menu? This is my special menu. I'd like...and... It's for (my brother). This is for (my brother). How much? It's... yen. Here you are. Thank you. Please enjoy.</p>	<p>would, special, menu 飲食物 (curry and rice, French fries, fried chicken, salad, parfait, bread, drink, mineral water など) 家族 (father, mother, sister, brother, grandfather, grandmother) 数 (seventy, eighty, ninety, hundred など)</p>	<p>Here you are. Here you are. 状態や気持ちを表す語、野菜、飲食物、状態や気持ちを表す言葉、数字 (1~60)</p>
<p>9 8 単位 時間</p>	<p>Who is your hero? あそこがあれの人</p> <p>【3(5)】「道徳教育の充実」の視点 6年生を送る会に向け、自分の目標となる先輩について改めて感謝の思いを馳せるなど、児童にとっても温まる単元としたい。</p>	<p>自分があこがれたり尊敬したりする人について自分の意見を含めて紹介しようとする。 ・音声で十分に慣れ親しんだ、得意なことについての簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かる。例を参考にしながら読んだり、書き写したりする。</p>	<p>得意なことについて聞いたり、言ったりすることが出来る。【LS】 ・ my hero について説明し、その人に対する自分の考えや気持ちなどを紹介し合う。【LS】 ・ 例文を参考に語と語の区別や基本的な表現を書き写す。【W】</p>	<p>Who is your hero? This is my hero. Why? Because [he/she] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook) well. [He/She] is [kind/cool/great/strong/gentle/active/brave].</p>	<p>hero, so 状態や気持ちを表す語 (kind, cool, great, strong, gentle, active, brave, funny, gentle, fantastic, tough, brave, cool, strong など)</p>	<p>Who are you? Who is this? 状態や気持ちを表す語、動作、スポーツ、日課、職業、家族</p>

文字との「出会い直し」としての活動を各単元で適宜取り入れる。

1 単元【8(7)時間】の組み立て方 例 資料D

※単元を通じて繰り返し取り組みさせる活動

Small Talk Sounds and Letters Let's Read and Write

Unit 5 第①時 Let's Watch and Think1 ②Let's Listen ③can のやりとり ④can のやりとり ⑤Let's Watch and Think 2 ⑥Let's Read and Write ⑦can を使った発表準備 ⑧can を使った発表

新しい表現・語句・語彙との出会い

【L】「聞くこと」※既習内容も含めて十分に聞かせる。

【S】「話すこと」※発表・やり取りをバランスよく経験させる。

【RW】「読むこと」「書くこと」

本単元で目指す児童の姿

※十分に慣れ親しんだ簡単な語句が無理なく読めたり、例文の語句を入れ替えて文を書き写したりできるようにさせる。

資料C

第6学年 外国語 年間指導計画 例

※吹き出しは「P149 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項」と対応している ※ は、繰り返し学習することによって定着を図る表現
 ※主な活動例について…【L】聞くこと【S】話すこと(発表・やり取り)【R】読むこと【W】書くこと

時数	単元名	単元目標	主な活動例	表現例	新出語彙・語句例	既習表現・語彙例	
1 7 時間	This is ME. 自己紹介	自己紹介に関する表現や好きなこと、できることなどを聞いたり言ったりすることができる。 自己紹介で好きなことや得意なことなどについて伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の子供たちの自己紹介を聞く。【L】 自分の好きなものなどを伝え合い、これまでに学習した簡単な語句や基本的な表現などを使って自己紹介をする。【LS】 例を参考に語と語の区切りに注意して自己紹介の基本的な表現を書き写したり、意味を理解したりする。【RW】 	I'm from (Saitama). My nickname is... I [like/can play] ... I want to go to... When is your birthday? My birthday is... What (subject) do you like? What is your favorite (sport)?	from, nickname, me subject	I [like/play/can] ... I want to go to... My birthday is... What... do you like? 挨拶、教科、色、動物、果物、飲食物、スポーツ、月、序数 (1 st -31 st) など	
2 8 時間	Welcome to Japan. 日本の文化	日本文化についての話を聞いて概要を捉えたり好きな日本文化について話したりする。 外国人に紹介したい日本文化について例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いていく。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化について、聞いたり言ったりする。【LS】 好きな日本の文化について伝え合う。【LS】 例を参考に語と語の区切りに注意して日本文化に関する簡単な語句や基本的な表現を書き写して外国人にお薦めの日本文化についてのガイドブックを作る。【RW】 	Welcome to Japan. In (summer) we have (Star Festival). I like... I enjoy... What [food/games] do you have in Japan? We have (soba/fukuwara!). It's (delicious/fun). You can enjoy (rakugo/hanami tempura).	culture, star, year, festival, fireworks, party, traditional 日本の行事 (Snow Festival, Star Festival) 味覚 (sweet, bitter など) soft, hard	I like... I have... It's... 状態や気持ちを表す語、スポーツ、飲食物、月、季節、日本の行事 (New Year's Day, Children's Day, Doll's Festival)	
3 8 時間	He is famous. She is great. 人物紹介	(主語+動詞+目的語)の文の語順に気付き、自分や第三者について聞いたり、言ったりすることができる。 語順を意識して、自分やある人について紹介したり、例を参考に紹介する文を書いたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 目的語にあたる様々な語彙を聞いたり言ったりする。【LS】 日本や世界で活躍する人物などに関する短い紹介文を聞いて概要を捉えたりある人物になったつもりで自己紹介をして「Who is this?」「[He/she] is [famous/great]」. 	I'm (Ken). I [like/play/love/want /study] ... I can... well. Who is this? [He/she] is [famous/great].	famous, old, racket, nut, computer	Who are you? Who is this? Who likes Monday? She can run fast. He can jump high.	
4 8 時間	My Summer Vacation 夏休みの思い出	過去の表現の仕方が分かったり夏休みの思い出について基本的な表現で書かれた英語を書き写したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに行った場所や過去のことを表す表現を聞いたり言ったりする。【LS】 「夏休み思い出発表会」として夏休みの思い出を伝え合う。【LS】 夏休みの思い出について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを推測しながら読んで書き写したりする。【RW】 	I went to my (grandparents' house). I enjoyed(fishing). I saw (the blue sea). I ate (ice cream). It was (fun/exciting/beautiful/delicious).	grandparent, vacation, 動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was) 自然 (beach, mountain, sea, lake, river など) 動作 (camping, fishing, hiking など)	I'm from ... I enjoy... my, it スポーツ、飲食物、季節、動作、身の回りの物、状態や気持ちを表す語 など	
編 P157, 158~160	資料D	編 P160, 161	資料E	※日本文化やオリンピックの競技名、学校行事などについて簡単な語句や基本的な表現を書き写す活動を各単元で取り入れることで、「文字に慣れ親しむ」段階から「大文字・小文字の定着」へと成長を促す。	We [have/don't have] (a gym). We can (play basketball). We can enjoy (jogging) (Sakura'cho) is a nice town. But I want a (library). Why? Because I want to... Where is (Lake Ashino)? It's in (Hakone).	town, so think, but, nature, 施設 (amusement park, aquarium), 動作 (jogging, playing, reading, shopping など) 観光地 (Tokyo Sky Tree, Mt. Fuji, Lake Ashino, Buddha, Kamakura, Hakone など)	I want (a new ball). Why? Because... Where is...? enjoy, have, buy, eat, play, see, 施設と建物、飲食物、状態や様子を表す語、動作、スポーツ など
5 8 時間	I like my town. 自分たちの町・地域	自己紹介で書いた地域を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いていく。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な地域の説明を聞く。【L】 自分たちの町や他の観光地などについて自分の考えを発表する。【LS】 例を参考に語と語の区切りに注意して自分たちの町に関する基本的な表現を書き写しながら、町のミニマップを作り発表する。【SRW】 	We [have/don't have] (a gym). We can (play basketball). We can enjoy (jogging) (Sakura'cho) is a nice town. But I want a (library). Why? Because I want to... Where is (Lake Ashino)? It's in (Hakone).	town, so think, but, nature, 施設 (amusement park, aquarium), 動作 (jogging, playing, reading, shopping など) 観光地 (Tokyo Sky Tree, Mt. Fuji, Lake Ashino, Buddha, Kamakura, Hakone など)	I want (a new ball). Why? Because... Where is...? enjoy, have, buy, eat, play, see, 施設と建物、飲食物、状態や様子を表す語、動作、スポーツ など	

文字を書き写すことができるをゴールに

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
 課題解決能力の向上を目指す。修学旅行での観光地について知りたいことなどについても考えを深めさせ、単元へと発展させた。め、単元4と入れ替え、この時期に設定した。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
 ここでは、新学習指導要領、小学校外国語教材「We Can!」での単元4と単元5を入れ替え、「夏休みの思い出発表会」をすするところという目的意識をもって活動させる。

<p>6 8 単位 時間</p>	<p>What sport do you want to watch? オリンピック・パラリンピック</p>	<p>・国名や競技名の言い方が分かる。 ・他者に配慮しながら、オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて伝え合おうとする。</p>	<p>・国名やオリンピック・パラリンピックの競技名について聞いたり言ったりする。 【LS】 ・オリンピック・パラリンピックで見たい競技について尋ねたり理由を付けて答えたりするなどして伝え合う。【LS】</p>	<p>What sport do you want to watch? I want to watch ... Why? Because I like ... Are you good at ...? Yes, I am. / No, I'm not. (He) is good at ... (She) is great ...player.</p>	<p>Olympic Games, evening, Paralympic Games, スポーツ (wheelchair tennis/basketball), sitting [volleyball], athletics, gymnastics, canoe, boxing, cycling, football, archery など) 学校行事 (sports day, entrance ceremony, graduation day, field trip, school trip, music festival など)</p>	<p>I [like/play] (soccer). I want to go to (Italy) why, because, morning, afternoon [He/she] is famous/great! What sport do you like? 国、スポーツ 動詞の過去形 (went, ate, saw enjoyed, was), we, I went to ... It was ... I enjoyed ... I saw ... school season, 飲食物、状態や気持ちを表す語、施設と建物、教科など</p>
<p>7 7 単位 時間</p>	<p>My Best Memory 小学校生活、思い出</p>	<p>・過去の表現の仕方が分かる。 ・学校行事について簡単な語句や基本的な表現で話されたい英語を聞いてその概要を捉えたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて心に残っている学校行事について自分の気持ちを伝え合ったりする。</p>	<p>・学校行事について聞いたり言ったりする。 【LS】 ・外国の小学校生活を知る。【L】 ・卒業アルバム作成に向けて学校生活を振り返り、思い出に残る行事について紹介文を書いて伝え合う。【LSW】</p>	<p>What's your best memory? My best memory [is/was] ... We went to ... We ate ... We saw ... We enjoyed ... We enjoyed ...</p>	<p>best, memory 学校行事 (sports day, entrance ceremony, graduation day, field trip, school trip, music festival など)</p>	<p>動詞の過去形 (went, ate, saw enjoyed, was), we, I went to ... It was ... I enjoyed ... I saw ... school season, 飲食物、状態や気持ちを表す語、施設と建物、教科など</p>
<p>8 8 単位 時間</p>	<p>What do you want to be? 将来の夢・職業</p>	<p>・将来就きたい仕事や夢について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりする。 ・他者に配慮しながら将来の夢などについて自分の考えや気持ちを伝え合う。</p>	<p>・将来就きたい職業などについて聞いたり言ったりする。 【LS】 ・将来の夢についての簡単な語句や、基本的な表現の例から選んで、語順を意識しながら「夢宣言スピーチ原稿」に自分の考えを書き、グループで発表し合う。【LSRW】</p>	<p>What do you want to be in the future? I want to be ... Why? Because I like ... I can ... That's (good). [I'm/You're] good at ... Good luck.</p>	<p>be, luck, future 職業 (astronaut, cook, nurse, soccer player, teacher, singer, flight attendant, vet, comedian, artist, doctor など)</p>	<p>What do you want? I want to [see/go to/visit] (Italy). I can ... do you like? Why, because 職業、動作、動詞の過去形、スポーツ、動物、教科、飲食物、身の回りの物、状態や気持ちを表す語など</p>
<p>9 8 単位 時間</p>	<p>Junior High School Life 中学校生活、部活動</p>	<p>・中学校生活について書かれている英語を推測しながら読む。 ・中学校で入りたり部活や楽しみな行事などについて、自分の考えや気持ちを伝え合う。</p>	<p>・中学校の部活動や学校行事などについて聞いたり言ったりする。 【LS】 ・中学校でやってみてみたいことについて伝え合う。【LS】 ・中学校や将来の夢について例を参考に情報を補ってスピーチ原稿を書き、クラス全体で「羽ばたこう、輝かしい未来へ！発表会」をする。【LSRW】</p>	<p>Which club do you want to join? What event do you want to enjoy? I want to join the ... club. I want to study hard. I want to enjoy ... I want to read many books. I want to make many friends. Why? Because I like ... Because I want to be a ...</p>	<p>member, club, team, practice, join, junior, us, event, uniform, make, read, test</p>	<p>Do you like soccer? Yes, I do. / No, I don't. I want to [see/go to/visit] (Italy). I can ... well. What ... do you like? Why, because [She/He] is ... 動作、身の回りの物、スポーツ、職業、日曜、曜日、行事、教科、状態や気持ちを表す語など</p>

「文字を書き出す」活動を単元で適宜取り入れる。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
卒業アルバム制作に合わせ小学校生活の思い出を想起させる単元として扱い、主体的に取り組ませる。

【3(3)】「教科横断的」な視点
外国語の言語材料を使って、4線上に思いを綴るスピーチ原稿を書いたり、グループのみんなに聞こえる大きな声でスピーチをしたりする学習により言語能力の育成に迫る。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
4技能(5領域)を通して小学校外国語で目指すゴールとなるような単元にするともに、様々な既習表現を生かして、話すこと【発表】のままとする。

【3(5)】「道徳教育の充実」の視点
中学校生活への期待感を生む、児童にとって心に残る単元となるよう工夫をする。

資料D

1 単元【8(7)時間】の組み立て方 例

※単元を通じて繰り返し取り組ませる活動

Unit 4 第①時 Small Talk②フエイント・リビート・ゲーム③Let's Talk (5~6人) ④Let's Talk (ペア) ⑤マツチング・ゲーム ⑥カード・ドスティニー・ゲーム ⑦Let's Read and Write ⑧Activity (発表)

新しい表現・語句・語彙との出会い

【L】「聞くこと」※既習内容も十分に聞かせる。

【S】「話すこと」※発表・やり取りをバランスよく経験させる。

【RW】「読むこと」「書くこと」

本単元で目指す児童の姿

※十分に慣れ親しんだ語句や表現が無理なく読めたり、例文の語句を入れ替えて文を書き写したりできるようにさせる。また外国語の特徴を意識しながら書き写すことにより「文構造」等に気付くことにもできるように促す。

資料D 第6学年 単元計画（8時間）

※ 吹き出しは、「P149 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項」と対応している

時	目標（◆）と主な活動（【 】、○）＊【 】＝誌面化されている活動	◎評価＜方法＞
1	<p>◆夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。</p> <p>○Small Talk 話題：夏の食べ物</p> <p>【Let's Listen①】・登場人物が、夏休みの思い出について話している英語を聞き、行った場所、そこでしたこと、食べた物の話の内容に合うように、ワークシートの誌面上の絵を線で結ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点</p> <p>通常の Listening 活動を行う以外に、「聞く必然性」を高め、「主体的に聞こうとする態度」を養うよう工夫することもできる。</p> <p>例) 最初に登場人物がどこに行き、何をしたのか、その感想について、ペアやグループの友達と協力して、イラストの情報だけで予測してみる。その予測が正しいかどうか、音声を聞いて確かめる。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>～埼玉県『主体的・対話的で深い学びの実現 6則』より～</p> <p>ペアやグループになってお互いの思い出を伝え合うことで、担任をはじめとした全教員と児童の信頼関係づくり、児童相互の好ましい人間関係づくりを行い、信頼関係に基づく学級づくりを進めていく。</p> </div> <p>【Let's Play】ポインティング・ゲーム①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が言う施設・場所、動作、食べ物の絵を指す（①個人、②ペア）。 <p>○Let's Play 夏休みに行った場所をペアで伝え合う。</p> <p>S1: I went to Hokkaido. How about you? S2: I went to Chiba.</p> <p>○Let's Read and Write 書く文例：I went to (Hokkaido).</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞きながら読んだ（言った）後、Word Box から言葉を選んで書き写す。 <p>○単元の終末の活動を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【3(1)】「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童」への指導の視点</p> <p>単元の終末の活動（ゴール）を示すことにより、見通しをもって学習に臨むことができるよう工夫する。</p> </div>	<p>◎I went to ～.を使って夏休みに行った場所を言ったり聞いたりすることができる。（行動観察、ワークシート、振り返りカード点検）</p>
2	<p>◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。またその感想を伝え合う。</p> <p>【Let's Play】前時のポインティング・ゲーム①②</p> <p>【Let's Watch and Think①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の子供たちが夏休みの思い出について話している映像資料を視聴し、分かったことを誌面に記入する。 <p>○Let's Play フェイント・リポート・ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・excitingなどの形容詞の絵カードを指導者が示し、児童はリポートする。（繰り返して言う。）児童が十分に慣れたところで、指導者が絵を指しながら違う形容詞を発音する。児童はそれに惑わされずに指された言葉を発音する。 <p>【Let's Chant】Summer Vacation</p> <p>○Let's Talk 夏休みに行った場所とその感想をペアで伝え合う。</p> <p>S: I went to the sea. It was beautiful. How about you?</p> <p>○Let's Read and Write 書く文例：I went to (the sea). It was (fun).</p> <p>()内の the sea や fun の部分を変えて書き写す。</p> <p>○Sounds and Letters /p/の音で始まる単語を発表し合い、4線上にpを書く。</p>	<p>◎夏休みの思い出についての話を聞いて、行った場所やしたことを誌面に書くことができる。（記述観察）</p> <p>◎I went to ～. It was ～.などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。（行動観察）</p>
3	<p>◆過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。＊（編160資料E指導案参照）</p> <p>○Small Talk 話題：夏休みの思い出（行った場所・感想）</p> <p>【Let's Chant】Summer Vacation</p> <p>○Let's Talk 5～6人で1グループを作り、順に夏休みに行った場所を話していく。その際、前の人が行った場所を言い、それに付け加えて自分が行った場所を話す。S1: I went to the sea. S2: You went to the sea and I went to the park.</p> <p>【Let's Play】ポインティング・ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が言う語を繰り返して言い、誌面にあるその絵を指さす。 <p>○Let's Read and Write 書く文例：I went to (the park). It was (nice).</p> <p>()内の the park や nice の部分を変えて書き写す。</p>	<p>◎I went to ～. It was ～.などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。（行動観察）</p>

	<p>◆夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりする。</p> <p>【Let's Chant】 Summer Vacation</p> <p>【Let's Listen②】・登場人物 3 人が夏休みに行った場所、したこと、食べた物、その感想を話している英語の音声のみを数回聞いて、内容に合うように誌面にある登場人物と絵を選ぶ。その後、改めて音声を聞きながら、解答を確認する。</p> <p>○Let's Play 指導者は、昨夜あるいは今朝食べた物を、絵カードを見せながら言う。一方的に言うのではなく、児童にそれを食べたか、好きかなどを尋ねる。次に児童はペアになり、昨夜の夕食、今日の朝食で食べた物を相手と伝え合う。</p> <p>○Let's Talk 夏休みに行った場所と食べた物、その感想をペアで伝え合う。</p> <p>S: I went to the sea. I ate <i>yakisoba</i>. It was delicious. How about you?</p> <p>○Let's Read and Write 書く文例: I ate (pizza). It was (delicious). () 内の pizza や delicious の部分を変えて書き写す。</p> <p>○Sounds and Letters /r/の音で始まる単語を発表し合い、4 線上に r を書く。</p>	<p>◎I went to ~. I ate ~. It was ~.などを使って、夏休みに行った場所と食べた物について、その感想を言ったり、聞いたりすることができる。(行動観察)</p>
5	<p>◆夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。</p> <p>○Small Talk 話題: 夏休みの思い出 (行った場所・食べた物・感想)</p> <p>【Let's Watch and Think②】</p> <p>・登場人物が夏休みにどこへ行き、何を食べたかなどを誌面の表に記入する。</p> <p>○Let's Play マッチング・ゲーム</p> <p>・ペアになり、1 人が場所や食べ物、動作の絵カードを持つ。もう 1 人が感想を表す形容詞の絵カードを持つ。相手に見えないように 1 枚ずつカードを選んで発話をし、意味が合えばマッチした組み合わせとしてカードをよける。</p> <p>S1: I enjoyed camping. S2: It was exciting. (○→カードをよける)</p> <p>S1: I enjoyed swimming. S2: It was delicious. (×→カードはそのまま)</p> <p>○Let's Play ペアで夏休みにしたことを言い合う。</p> <p>S: I went to the mountains. I enjoyed hiking. It was nice. How about you?</p> <p>○Let's Read and Write 書く文例: I enjoyed (fishing). It was (exciting).</p>	<p>◎I went to ~. I enjoyed ~. It was ~.などを使って、夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりすることができる。(行動観察)</p>
6	<p>◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想を伝え合う。</p> <p>【Let's Chant】 Summer Vacation</p> <p>【Let's Listen③】</p> <p>・登場人物 4 人が、ある場所に行ってしたこと、その感想を話し、最後に Guess where I went.とクイズを出している英語の音声を聞き、登場人物がどこで何をしたのかを考えて、誌面の絵から選ぶ。</p> <div data-bbox="215 1415 1358 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【3(3)】「教科等横断的」な視点</p> <p>登場人物が夏休みどこへ行き、何を食べたかなどを聞いて、社会科で得た知識と結び付けたり、地図帳などを用いながら活動を行うなどの工夫をしたりすることで、児童の知的好奇心を刺激する。</p> </div> <p>○Let's Play カード・デスティニー・ゲーム</p> <p>・ペアで行う。動作、食べ物、感想絵カードを分けて持ち、それぞれ机の上に並べる。指導者が I went to (施設・場所).と 言うのを聞いて、それに関連する絵カードを持っている方が、その絵カードを出しながら、後に文を続けて言う。</p> <p>①I enjoyed ~.→②It was ~.→③I ate ~.→④It was ~.</p> <p>○Let's Talk 夏休みの思い出に関して、[行った場所][楽しんだこと][食べた物][感想]のいずれかについて、誌面を参考にしてペアに話す。</p> <p>○Sounds and Letters /s/の音で始まる単語を発表し合い、4 線上に s を書く。</p>	<p>◎夏休みの思い出について話を聞き、行った場所、したことなどが分かり、内容に合う絵を選ぶことができる。(行動観察)</p> <p>◎I enjoyed ~ing.や I ate ~.などを使って、夏休みに楽しんだことや食べた物について伝え合っている。(行動観察)</p>
7	<p>◆夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。</p> <p>○Small Talk 話題: 週末の思い出 (行った場所・楽しんだこと・感想)</p> <p>【Let's Read and Watch】</p> <p>・まず、夏休みの思い出について書かれた英文を読む。その後、その英文が話さ</p>	<p>◎夏休みの思い出について書かれた英文を読んで内容を理解し、その英文を書</p>

	<p>れている映像資料を視聴して内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料の音声に合わせて英文を読む。その後、映像資料の音声を消して、映像資料の英文を再度読む。 <p>○Let's Read and Write</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、行った場所、食べた物、したことなど前時までにワークシートに書き写した文を読む。 I went to the sea. It was fun. ・ I ate pizza. It was delicious. ・ I enjoyed fishing. It was exciting. <p>【Activity】 ペアで夏休みの思い出について伝え合う。相手を替えて繰り返す。</p>	<p>いた人物を選んでいる。 〈記述観察〉</p> <p>◎I went to ~. I enjoyed ~ing. It was ~. I ate ~. などを使って、夏休みの思い出について伝え合おうとしている。(行動観察)</p>
<p>【3(4)】「社会に関かれた教育課程」の視点</p> <p>地域の人やゲストティーチャーにも夏休みの思い出を語るなど、話し手としての意識を高める活動を行ったり、隣の中学校の生徒が書いた夏休みの作文を読んだりする。</p>		
8	<p>◆自分の夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書こうとする。</p> <p>○Let's Read and Write</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、前時までに書き写した文を参考に、行った場所、食べた物、楽しんだこと、感想を思い出アルバム用のシートに清書する。 <p>○Activity 児童が前時で書いたアルバム用シートのいくつかを聞いたり、読んでりして、それが誰なのかを考えて発表する。</p> <p>【Story Time】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り扱うライムは-ish。(※ライム=韻を踏むこと) デジタル教材でライムの単語とそれらが含まれる文を2~3回聞く。その後、音声の後について言う。 ライムしている単語だけを読み出す。 ライムしている句や文だけを2~3回読んでみる。 	<p>◎夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考にしながら書こうとしている。 (行動観察・記述観察)</p>

資料E 指導案 3/8 (1単位時間の計画)

目標 過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

準備 デジタル教材・・・デ教、児童用テキスト・・・テキスト、絵カード・・・絵カ、
ワークシート・・・WS、振り返りカード・・・振カ

○本時の展開 (3/8) ※ 吹き出しは、「P149 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項」と対応している

時間	児童(S)の活動 *【 】=誌面化されている活動	指導者(T)の活動と使用英語例 ◎ 評価(方法)	準備物
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
9分	<p>○Small Talk</p> <p>話題：夏休みの思い出(行った場所・感想)</p> <p>S1: I went to the amusement park. It was fun!</p> <p>S2: You went to the amusement park. That's nice.</p> <p>S1: How about you?</p> <p>S2: I went to Okinawa. It was beautiful!</p> <p>S1: You went to Okinawa. That's great.</p>	<p>(指導例)</p> <p>S1: 「海に行った」って言いたい。</p> <p>T: Oh, you went to the sea.</p> <p>S2: Me too. I went to the sea.</p> <p>T: そうですね。「海に行った」は、「I went to the sea.」とえばいいですね。</p> <p>S3: 「わくわくした」は?</p> <p>S4: exciting だよ!</p> <p>T: そうですね。It was exciting とえば伝わるね。 このように最初に言い方などを復習してから Small Talk をやらせてみる。</p>	
<p>【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点</p> <p>英語で何と言うのか、教師がすぐに答えを提示するのではなく、児童同士が持っている知識を活用したり、話し合ったりしながら考え、目標とする表現(ここでは、I went to ~.)に慣れ親しませ、思考力、表現力を高めていく。</p>			
5分	【Let's Chant】 Summer Vacation	・一緒にチャンツを言う。	<u>デ教</u>

10分	<p>○Let's Talk</p> <p>・夏休みに行った場所や感想を伝え合う。</p>	<p>・夏休みに行った場所や感想をグループで伝え合うことを告げる。</p> <p>T: Let's talk in groups.</p>	<p>【3(1)】「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童」への指導の視点</p> <p>① 挨拶 ② Small Talk ③ チャンツ又は歌 ④ Activity 1 ⑤ Activity 2 ⑥ 振り返り ⑦ 挨拶</p> <p>その日の授業の流れを、メニューのようにあらかじめ提示しておくことも効果的である。</p>
<p>〈活動の手順〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5～6人でグループを作る。 ・ グループで円になり、それぞれ伝える「夏休みに行った場所」を決める。 ・ 最初の児童が自分の「夏休みに行った場所」を言う。 ・ 次の児童は、前の児童が言ったことを You ～と繰り返して言った後、自分の「行った場所」を付け足す。 ・ その順番で最後の児童まで、場所を付け足し、文を言っていく。 ・ 次に、行った場所に感想を付け加えて言い、同様の活動を行う。 		<p>◎I went to～. It was～などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。〈行動観察〉</p>	
<p>S1: I went to the sea. S2: Oh, you went to the sea! I went to the swimming pool. S3: Oh, you went to the swimming pool. I went to the amusement park.</p>			
<p>【3(5)】「道徳教育の充実」の視点</p> <p>しっかりと相手と向き合い、手のひらで相手を指示しながら、「君は、海へ行ったんだね。(いいなあ)。僕は、遊園地へ行ったんだよ」という思いを込めて発表させ、相手を尊重する意識を持たせる。</p>			
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点</p> <p>友達の言ったことを繰り返したり、触れたりすることで、自然な会話の流れで目標とする表現(ここでは、I went to～.)を定着につなげていく。</p>			
9分	<p>【Let's Play】 ポインティング・ゲーム</p> <p>・ 感想を表す形容詞を使ってポインティング・ゲームを行う。</p>	<p>・ 指導者が言う It was～を繰り返し、誌面にある感想を表す絵を指す。児童が慣れてきたら、指導者は感想だけでなく、I went to (ate, enjoyed)～. It was～.と言い、児童に You went to (ate, enjoyed)～. It was～.と繰り返して言わせるようにする。</p>	<p>絵カ テキスト</p>
5分	<p>○Let's Read and Write</p> <p>書く文例: I went to (the park). It was (nice).</p> <p>・ 音声を聞いて繰り返し読んだ(言った)後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。</p>	<p>T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence and read it. Copy one word from the word box.</p>	<p>デ教 WS</p>
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点</p> <p>音声で十分に慣れ親しんだ文(I went to～. It was～.)や単語(sea, parkなど)をその時間の最後になぞらせたり、視写させたりする。英語の音と文字を一致させるようにするためには、まずは音声で十分に慣れ親しませることが重要である。</p>			
5分	<p>・ 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・ 本時のねらいに照らして児童を評価する。</p> <p>・ 挨拶する。</p>	<p>振カ</p>
1分	<p>・ 挨拶をする。</p>		